

性別にかかわらず、個性と能力を発揮できる弁護士会を

第26回 女性会員ミニランチ会

～アンコンシャス・バイアス(無意識の偏見)について考えてみよう～

男女共同参画推進本部委員 林田 麻里 (63期)

1 女性会員ミニランチ会について

女性会員ミニランチ会は、様々な修習期の女性会員の交流を通じて、主に比較的若手の女性会員に対するメンタリングの機会を提供すべく、男女共同参画推進本部が、男女共同参画第二次基本計画に基づき2017年1月より不定期に開催している情報交換会である。これまで、「育児との両立」「仕事・営業に役立つネットワーク作りのコツ」というテーマで開催し、3回目となる今回は、ダイバーシティの現場で話題となりつつあるアンコンシャス・バイアスに関するワークショップを行った。

2 アンコンシャス・バイアス(無意識の偏見)とは

今回のミニランチ会では、以下のような基本情報を参加者と共有して、アンコンシャス・バイアスの事例紹介を行った後、意見交換を行った。

アンコンシャス・バイアスとは、2000年前後から着目され始めた新しい概念で、人が無意識のうちに持つ偏見のことをいう。育つ環境や所属する集団の中で知らず知らずのうちに脳にきざみこまれ、既成概念、固定概念となっていくものであり、バイアスの対象は、男女、人種、貧富などと様々であるものの、自覚できないために自制することも難しいとされている。アンコンシャス・バイアスは、程度や性質の差こそあれ誰でも持っているものであり、自らが有するバイアスを自覚することで、より公平な判断をできるようにすることが大切であるとされている。近年、アンコンシャス・バイアスは、女性の活躍や多様な人々が能力を発揮するのを妨げているとして、ダイバーシティの推進において注目されている。

3 意見交換

上記の情報共有を踏まえて、「どのような無意識の偏見を経験したか」「無意識の偏見との向き合い方」「無意識の偏見の対処法」等について意見交換を行った。その中で、例えば、①週末に事務所に行くと「ご家庭は大丈夫？」と訊かれるが、男性弁護士は訊かれないようである、②依頼者から担当する弁護士の性別を指定されることがあった、③採用面接で「うちは労働環境が厳しいから女性はもっとホワイトなところに行ったら？」と言われた等の経験を共有して頂いた。このような(無意識の)偏見が存在していることを男性会員にも周知すべきとのご意見もあった。一方で、女性だからと出世を遠慮する人もいるなど、女性自身も無意識の偏見を持っているのではないかとのご指摘もあった。また、ミニランチ会の総括として出された、相手が自分をどう見るかではなく自分がどう働きたいかを大切にすると良いとの意見が印象的であった。

4 結びにかえて

ミニランチ会は、坂野事務局次長による興味深いテーマのアイデア出しや芹澤事務局長による丁寧なサポートもあり、参加者間で積極的な意見交換を行うことができ、とても貴重な機会となったと思う。参加者同士で修習期を超えて名刺交換をする機会にも恵まれ、今後の私的な懇親のきっかけに飲み会の企画なども行っていきたいと思った。

女性会員に限定したイベント開催については様々な考え方の会員もいることと思うが、一参加者としての個人的な感想としては、女性会員だけであるからこそ相談できる本音を話すことができ、温かいエールをもらえるなど大変有意義な機会となった。